

第22回日本環境毒性学会研究発表会 プログラム

2016年9月6日(火曜日)、7日(水曜日)

愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟

2016年9月6日(火曜日)

- 08:15 - 受付開始
- 09:00 - 09:05 開会の挨拶 : A会場 (S32)
- 09:05 - 14:55 奨励賞応募講演発表 : A会場 (S32)
(12:00 - 13:15 昼食休憩)
- 14:55 - 15:50 ポスター発表 : C会場 (S33)
- 15:50 - 18:20 提案セッション : A会場 (S32)
- 18:45 - 21:00 懇親会および奨励賞受賞者発表 : 愛媛大学生協

2016年9月7日(水曜日)

- 08:30 - 受付開始
- 09:00 - 11:30 企画シンポジウム講演発表 : A会場 (S32)
- 11:30 - 12:10 CERI賞授賞式/日本環境毒性学会通常総会 : A会場 (S32)
(12:10 - 13:00 昼食休憩)
- 13:00 - 16:35 一般講演発表 : A会場 (S32) B会場 (S31)
- 16:35 - 16:40 閉会の挨拶 : A会場 (S32)

口頭発表 発表者の方へ

1. 発表のファイルは、開会の前か昼食休憩中に各会場のPCにインストールし、動作確認をお願い致します。
9/6(火) : 開会の前 8:15 - 09:00、昼食休憩 12:00 - 13:15、ポスターコアタイム中 15:05 - 16:00
9/7(水) : 開始前 8:30 - 09:00、昼食休憩 12:10 - 13:00
2. ファイル名は演題番号と苗字にしてください。(例 : S-1 仲山)
3. ファイルはUSBメモリーでお持ちください。Office Power Point2016 および Adobe Acrobat Reader を用意致します。
4. Macintoshをご利用の方はWindowsで利用可能な形式にするか、ご自身でPCをご用意ください。
5. スライド操作は、発表者ご自身でお願い致します。
6. 発表は必ず下記時間内で終了するようにお願い致します。(発表時間 20分)
一鈴 : 13分 二鈴 : 15分 (発表終了) 三鈴 : 20分 (質疑討論終了)
7. シンポジウム講演の発表時間は15分間 (質疑討論はシンポジウムの最後にあります。)

ポスター発表 発表者の方へ

1. ポスターはA0サイズで作成してください。
2. ポスターの掲示は1日目(9/6)の昼食休憩終了まで、撤去は2日目(9/7)の16:00までをお願い致します。
3. ポスター発表者は、コアタイム中は必ず自分のポスター前で待機してください。

8:15 - 受付開始

9:00 - 9:05 開会の挨拶(学会長)

【奨励賞応募講演発表】

座長(午前): 関 雅範(一般財団法人化学物質評価研究機構), 山本裕史(国立環境研究所), 横田弘文(神戸女学院大学大学院)

9:05 - 9:25 S-1 下水処理水に残留する生活関連化学物質の魚への取り込み・排泄 ～脳移行・残留性解析～
○田上瑠美, 仲山 慶, 野見山桂, 田辺信介, 国末達也(愛媛大学沿岸環境科学研究センター)

9:25 - 9:45 S-2 バイオエアロゾルに含まれる生物情報に関する研究
○遠藤優輝¹, LU WENHAO¹, 竹久祥悟¹, 佐脇和真¹, 岩橋 均¹, 高橋淳子²(¹岐阜大学大学院 応用生物科学研究科, ²(独)産業技術総合研究所バイオメディカル研究部門)

9:45 - 10:05 S-3 メタボローム解析による血清中PCBs曝露マーカーの探索
○江口哲史, 櫻井健一, 渡邊応宏, 森 千里(千葉大学予防医学センター)

10:05 - 10:25 S-4 PAHsのジャワメダカ再生産への影響
○羽倉昌幸¹, 小山次朗², 宇野誠一²(¹鹿児島大学大学院水産学研究科, ²鹿児島大学水産学部)

10:25 - 10:40 休 憩

10:40 - 11:00 S-5 Toxicological effects of Zinc oxide nanoparticles (nano-ZnO) on three species of freshwater algae
○Truptimayee Behera¹, Minakshi M Behera¹, Shosaku Kashiwada³, Sudhansu S Mishra¹, Saubhaghya M Samantray², Bhagyashree Mohanty¹, Priyabrat Swain¹(¹Central Institute of Freshwater Aquaculture, ²Orissa University of Agriculture and Technology, ³Toyo University)

11:00 - 11:20 S-6 日本の海産資源種に対する銅の毒性評価 志津川湾重要種マガキとマボヤの胚・幼生を用いて
○千葉健太¹, 田井理絵¹, 西村悠¹, 伊藤 奏², 益永茂樹³, 内藤 航⁴(¹横浜国立大学・環境情報学府, ²横浜国立大学・理工学部, ³横浜国立大学・環境情報研究院, ⁴産業技術総合研究所)

11:20 - 11:40 S-7 溶出試験による漁網防汚塗料から海水に溶出した銅が海産藻類に及ぼす影響
○北野徳治¹, 田中風太¹, 中村紗矢香¹, 岡村秀雄², 浅岡 聡²(¹神戸大学大学院海事科学研究科, ²神戸大学 内海域環境教育研究センター)

11:40 - 12:00 S-8 Sediment TIE手法を用いた道路塵埃のニホンドロソコエビへの毒性要因の推定
○日置恭史郎¹, 中島典之¹, 飛野智宏²(¹東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 ²東京大学環境安全研究センター)

12:00 - 13:15 昼 食 休 憩

座長(午後): 宇野誠一(鹿児島大学), 岡村秀雄(神戸大学), 加茂将史(産業技術総合研究所)

13:15 - 13:35 S-9 ジクロフェナクによる魚類の下顎欠損における雌性ホルモンの関与
○鈴木とも子¹, 石原礼菜², 坂井香菜実², 鶴田幸成³, 江口さやか², 横田弘文¹(¹神戸女学院大学大学院人間科学研究科, ²神戸女学院大学人間科学部, ³九州大学大学院農学研究科)

13:35 - 13:55 S-10 水酸化PCBsによるバイカルアザラシ エストロゲン受容体を介した影響評価 -*In vitro*・*in silico*法を用いたアプローチ
○芳之内結加¹, 平野将司¹, 野見山桂¹, 田辺信介¹, 金 恩英², 岩田久人¹(¹愛媛大学・沿岸環境科学研究センター, ²Kyung Hee University, Korea)

13:55 - 14:15 S-11 ネオニコチノイド系農薬による松山平野河川の汚染実態と水圏生態系へのリスク評価
○富岡恵大, 櫻田紘也, 河野公栄, 高橋 真(愛媛大学大学院 農学研究科 附属環境先端技術センター)

- 14:15 - 14:35 S-12 二酸化炭素回収過程で発生するアミン類物質の水生生物に与える影響
○夏 夢怡¹, 渡部春奈², 阿部良子², 山本裕史², 鎌迫典久^{1,2}(¹東京大学大学院・新領域創成科学研究科, ²国立環境研究所)
- 14:35 - 14:55 S-13 酸化イットリウムナノ粒子の酵母に対する影響評価
○森山章弘¹, 水野陽太¹, 岩橋 均¹, 高橋淳子², 堀江祐範²(¹岐阜大学大学院 応用生物科学研究科, ²産業技術総合研究所)

14:55 - 15:50 ポスター発表

【提案セッション】「室内試験データの活用: 野外影響評価へどう繋げるか」

座長: 羽野健志(水産研究・教育機構), 岩崎雄一(東洋大学)

- 15:50 - 16:10 OP-1 ネオニコチノイド系農薬の河口干潟域における水中濃度と海産甲殻類への毒性影響
○羽野健志¹, 伊藤克敏¹, 大久保信幸¹, 伊藤真奈¹, 隠塚俊満¹, 阪地英男¹, 河野公栄²(¹国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所, ²愛媛大学農学部)
- 16:10 - 16:30 OP-2 イミダクロプリドの環境変化体(PTPWs)の水生生物に対するリスク評価
○安田侑右¹, 山本 潤¹, 石川英律¹, 岡村哲郎¹, 宮本信一¹, 田畑彰久¹, 上田岳彦², 門川淳一², 高梨啓和²(¹いであ株式会社, ²鹿児島大学大学院・理工学研究科)
- 16:30 - 16:50 OP-3 アキアカネ類幼生に対する稲箱施用殺虫剤の影響評価 産地間の感受性の比較 第2報
○大津和久¹, 神宮字寛²(¹国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター, ²宮城大学)
- 16:50 - 17:20 OP-4 室内毒性試験、種の感受性分布、メソコスムを活用した生態影響評価結果の相互比較
○永井孝志(国立研究開発法人農研機構・農業環境変動研究センター)
- 17:20 - 17:50 OP-5 船底塗料用防汚物質の沿岸生態系に対する影響を評価する試み
○持田和彦(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所)
- 17:50 - 18:20 OP-6 野外影響評価の(不)可能性: 3年間のネオニコチノイド系等農薬の水田影響評価研究から見たもの
○林 岳彦(国立環境研究所)

18:20 - 18:45 休憩 懇親会会場へ移動

18:45 - 21:00 懇親会および奨励賞受賞者発表(愛媛大学生協)

8:30 - 受付開始

【企画シンポジウム講演発表】「レギュラトリーサイエンスの視点で環境毒性学を考えよう」

座長:高橋宏和(日本化学工業協会)

9:00 - 9:05 企画シンポジウム 趣旨説明

9:05 - 9:30 SS-1 レギュラトリーサイエンスの概念整理 -「もう一つの科学」の確立と普及を目指して-
○岸本充生(東京大学公共政策大学院/政策ビジョン研究センター)9:30 - 9:55 SS-2 環境毒性学とレギュラトリーサイエンス 農薬の生態リスク評価の事例から
○永井孝志(国立研究開発法人農研機構・農業環境変動研究センター)9:55 - 10:20 SS-3 生態リスク評価方法の比較 種の感受性分布とアセスメント係数を用いる方法
○加茂将史(産業技術総合研究所・安全科学研究部門)10:20 - 10:45 SS-4 生態毒性試験とレギュラトリーサイエンス
○鐘迫典久(国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)10:45 - 11:10 SS-5 工業会がレギュラトリーサイエンスで果たせる役割
○高橋宏和(一般社団法人 日本化学工業協会 LRI研究戦略企画部会)

11:10 - 11:30 討論

11:30 - 12:10 CERI賞授賞式/日本環境毒性学会通常総会

12:10 - 13:00 昼 食 休 憩

【一般講演発表】

座長:坂本正樹(富山県立大学)

13:00 - 13:20 OA-1 渡良瀬川に生息するウグイの重金属蓄積応答
○岩崎雄一¹, 古井 知², 富山英明², 北村大樹², 立田晴記³, 柏田祥策¹(¹東洋大学・生命環境科学研究所, ²東洋大学・生命科学部, ³琉球大学・農学部)13:20 - 13:40 OA-2 金属の複合影響～スペシエーションにより見かけ上の非線形効果が現れる
○加茂将史¹, 横溝裕行²(¹産業技術総合研究所, ²国立環境研究所)13:40 - 14:00 OA-3 珪藻*Navicula pelliculosa*への金属毒性に対する硬度とpHの影響
○永井孝志(国立研究開発法人農研機構・農業環境変動研究センター)

座長:渡部春奈(国立環境研究所)

14:00 - 14:20 OA-4 ミジンコの摂取量測定による毒性評価
○釜谷美則, 和仁なつ美, 藤戸祥太郎(工学院大学 先進工学部 応用化学科)14:20 - 14:40 OA-5 海産生物を用いた事業場排水の影響評価:シオダマリミジンコ繁殖試験の適用性の検討
○楠井隆史¹, 光友達也²(¹富山県立大学・工学部, ²福井県庁)14:40 - 15:00 OA-6 ニクロム酸カリウムの毒性の変動要因
○菊地幹夫, 主藤綾夏, 福森 誠, 澤井 淳(神奈川工科大学・応用バイオ科学部)

15:00 - 15:15 休 憩

座長:伊藤克敏(水産研究・教育機構)

15:15 - 15:35 OA-7 ヨコエビを用いた底質毒性試験法の検討
○渡部春奈¹, 田村生弥², 高信ひとみ³, 谷 和音⁴, 山本裕史¹, 鐘迫典久¹(¹国立環境研究所, ²岡山大学, ³(株)イワキ, ⁴徳島大学)15:35 - 15:55 OA-8 カルペンダジムの底質添加によるセスジユスリカ毒性試験 小型成虫の出現
○久楽 喬, 縄司 奨, 松浦 武, 関 雅範(一般財団法人化学物質評価研究機構)15:55 - 16:15 OA-9 メダカ属胚による東京湾底質の影響評価
○國師恵美子, 中村周太郎, 河野真知, 小山次朗, 宇野誠一(鹿児島大学・水産学部)16:15 - 16:35 OA-10 発達期ゼブラフィッシュにおけるCYP1A/AHRフィードバック機構攪乱の影響
○久保田彰¹, Emma Wincent², John Stegeman³(¹帯広畜産大学 動物・食品検査診断センター, ²カロリンスカ研究所 環境医学研究所, ³ウッズホール海洋研究所 生物学部門)

16:35 - 16:40 閉会の挨拶

【一般講演発表】

座長: 國師恵美子(鹿児島大学)

- 13:00 - 13:20 OB-1 メダカの発音における化学物質の影響
○姜 益俊, 邱 旭春, 大嶋雄治(九州大学)
- 13:20 - 13:40 OB-2 メダカ受精卵への物質導入法によるワーファリンの発生影響評価
○山口明美¹, 大河平紀司¹, 富永伸明¹, 有菌幸司²(¹有明高専創造工学科環境生命コース, ²熊本県立大学環境共生学部)
- 13:40 - 14:00 OB-3 有機ハロゲン化合物によるペット動物の汚染実態と甲状腺ホルモンへの影響
○野見山桂¹, 山本恭央², 水川葉月², 江口哲史³, 滝口満喜², 中山翔太², 池中良徳², 石塚真由美², 国末達也¹, 田辺信介¹(¹愛媛大学沿岸環境科学研究センター, ²北海道大学大学院獣医学研究科, ³千葉大学予防医学センター)

座長: 田上瑠美(愛媛大学)

- 14:00 - 14:20 OB-4 ニジマス肝S9を用いたin vitroによる生物蓄積性評価法
○大嶋雄治¹, Qiu Xuchun¹, 島崎洋平¹, 橋爪直樹², 井上義之²(¹九州大学大学院農学研究院, ²一般財団法人化学物質評価研究機構)
- 14:20 - 14:40 OB-5 汚染耐性魚アベハゼ *Mugilogobius abei* のPAH代謝能に関する研究
○伊藤克敏, 羽野健志, 伊藤真奈, 隠塚俊満, 大久保信幸, 河野久美子, 持田和彦(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所)
- 14:40 - 15:00 OB-6 マコガレイにおける多環芳香族化合物の蓄積特性
○河野久美子, 大久保信幸, 羽野健志, 田中博之(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所)

15:00 - 15:15

休 憩

座長: 江口哲史(千葉大学)

- 15:15 - 15:35 OB-7 フナムシなど水生生物における2 μmポリスチレン粒子の飲み込み
○大嶋雄治, 鶴田幸成, Qiu Xuchun, Xu Hai, 島崎洋平(九州大学大学院農学研究院)
- 15:35 - 15:55 OB-8 我が国における多環芳香族炭素類の予測環境中濃度の算出
○田中博之, 河野久美子(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所)
- 15:55 - 16:15 OB-9 海域から検出された除草剤に対する珪藻および鞭毛藻の感受性比較
○隠塚俊満, 中山奈津子, 伊藤克敏, 持田和彦(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所)

- P-1 イエネコを対象としたPCBs毒性影響評価:メタボロミクスアプローチ
○西川博之¹, 野見山桂¹, 水川葉月², 横山 望², 市居 修², 滝口満喜², 石塚真由美², 池中良徳², 中山翔太², 江口哲史³, 国末達也¹, 田辺 信介¹(¹愛媛大学沿岸環境科学研究センター, ²北海道大学大学院獣医学研究科, ³千葉大学予防医学センター)
- P-2 除草剤などの様々な環境ストレスがアマモに及ぼす影響 生長、光合成活性、および葉体内代謝物変動の比較
○持田和彦, 羽野健志, 隠塚俊満, 吉田吾郎(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所)
- P-3 水質に依存して異なる銅の毒性:河川水を用いた実験的解析
○坂本正樹¹, 河鎮龍², 加茂将史³(¹富山県立大・工学部, ²信州大・理学部, ³産総研・安全科学研究部門)
- P-4 代謝物網羅的解析に基づく銅のニホンドロソコエビ繁殖阻害影響の予測
○柳原未奈¹, 中島典之¹, 飛野智宏²(¹東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻, ²東京大学環境安全研究センター)
- P-5 底生カイミジンコを用いた慢性毒性試験における孵化観察期間:個体群行列モデルに基づく提案
○日置恭史郎¹, 飛野智宏², 中島典之¹, 塚原健太¹(¹東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻, ²東京大学環境安全研究センター)
- P-6 炭酸脱水酵素阻害剤エトキシゾルアミドによるゼブラフィッシュ胚への影響
○松本寛子, 藤原祥子, 都筑幹夫(東京薬科大・生命科学)
- P-7 ミジンコ2種の餌資源競争能力に対する殺虫剤の影響
○真野浩行, 坂本正樹, 南山瑞彦(国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ 水質チーム)
- P-8 イヌの脳へ及ぼすPCBsの毒性とその評価-オミクスによる影響解析-
○高口倅暉¹, 野見山桂¹, Lauan Maria Claret¹, Yoo Jean¹, 水川葉月², 岩田久人¹, 国末達也¹, 田辺信介¹(¹愛媛大学 沿岸環境科学研究センター, ²北海道大学大学院 獣医学研究科)
- P-9 ヒメダカを用いる病理標本作製のための固定方法の検討
○三木雅代(公益財団法人食品農医薬品安全性評価センター)
- P-10 ビレン暴露によるクサフグ胚の行動異常はAHRとは異なる経路で生じる
○河原萌恵¹, 糸山達哉¹, 菅原由貴¹, 福井眞生子¹, 黒川大輔², 北村真一³, 仲山 慶³, 村上安則¹(¹愛媛大学大学院理工学研究科, ²東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所, ³愛媛大学沿岸環境科学研究センター)
- P-11 WET試験としての海産藻類を用いた生長阻害試験法の検討
○高田 実, 楠井隆史(富山県立大学・工学部)
- P-12 淡水性浮遊珪藻 *Ulnaria japonica* の重クロム酸カリウムに対する感受性
○中村千穂¹, 小島崇広¹, 雑賀 修¹, 藤原尚美²(¹株式会社プラントビオ, ²株式会社神鋼環境ソリューション)
- P-13 津波火災で何が生成するか 一重油燃焼実験による新規生成PAHsの探索と環境試料との比較
吉田 愛, ○中田晴彦(熊本大学大学院自然科学研究科)
- P-14 環境中の化学物質濃度情報を管理するプラットフォーム「ChemTHEATRE」の構築
○仲山 慶¹, 磯部友彦², 宇野誠一³, 半藤逸樹⁴, 大野暢晃⁵, 国末達也¹(¹愛媛大学沿岸環境科学研究センター, ²国立環境研究所環境健康研究センター, ³鹿児島大学水産学部, ⁴総合地球環境学研究所, ⁵兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科)